

# The Third International Conference on Preservation of Botanical Collections

|       |   |
|-------|---|
| メタデータ | 言語: jpn<br>出版者:<br>公開日: 2019-09-09<br>キーワード (Ja):<br>キーワード (En):<br>作成者:<br>メールアドレス:<br>所属: |
| URL   | <a href="http://hdl.handle.net/2297/00055406">http://hdl.handle.net/2297/00055406</a>       |

This work is licensed under a Creative Commons  
Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0  
International License.



○ 清水建美：第3回国際植物標本保全会議 Tatemi Shimizu: The Third International Conference on Preservation of Botanical Collections

2001年9月23-26日、北京市香山の中国科学院植物学研究所で表記の国際会議（中国語訳は第3回国際植物標本保蔵大会）が開かれた。私はこの会議の世話役を務めた同研究所のQin氏からの要請に基づき、参加した。

配布された第2サーキュラーによるとこの会議の目的は“The conference will provide a forum for presentation and discussion of the current status in the preservation of botanic collection worldwide. The conference will focus on the preservation measures understood in botanical and mycological collections, such as to prevent deterioration and damage to collections to ensure their longterm preservation. Herbarium information system status and problems is another important topics covered by the conference.”とされる。私はこの会議の存在は全く知らなかったが、聞けば第1回は1993年12月にロシアのサンクトペテルスブルグで、第2回は1997年6月にポーランドのクラコウで行われた由である。

プログラムは

- (1) Computerization and Images of Botanical Collections
- (2) Preservation and Management of Botanical Collections
- (3) Status and Importance of Botanical Collections throughout the World
- (4) Challenges and Strategies for Herbaria in the 21st Century

の4部にわかれ、講演時間は各20分、23講演が予定された。私は第1部で“The floristic database of Nagano Prefecture and its utility”（金井弘夫氏と共同）と題して、長野県植物誌データベースの構築状況とその利用状況について紹介した。

ところで、当初は参加者100名余と伝えられていたが、会議開催のほぼ10日前に起きたアメリカの同時多発テロ事件のせいか、参加辞退や講演辞退が相次ぎ、最終的な参加者は北京在住者を除きロシア8、日本2、中国15（台湾1）、ベトナム3、インド2、ドイツ2、英国1、米国1、メキシコ1の35名、講演数は19に止まった。そのため、当初予定された3会場は1会場に変更され、プログラムは繰り上げられて2日目の午前中に終了してしまい、昼食後は植物園および植物標本館の見学とフリートークに当てられることになった。会議を通してデータベース作成や相互利用の難しさ、例外的な存在はあるもののハーバリウム利用者、特に若年層の利用者の少なさ、維持管理の予算獲得の困難さなどが世界共通の問題として語られたのが印象的であった。第4日は故宮（紫禁城）ほか北京市内の観光とショッピング、27-29日は北京市西北部の景勝地靈山自然風景区へのイクスカーションがおこなわれ、靈山には中国を含め4カ国10名が参加した。

この第3回会議の講演内容は来春単行本として出版されることになったし、第4回会議は2005年にインドのルクノウで開かれる事が決まった。小規模ながら植物標本の保全・活用に情熱を傾ける人びとは、国境を越えた協力体制づくりに取り組もうとしている。今回の会議は私と臨時に参加した1名のほかには日本からの参加者はいなかったが、われわれも国境を越えて新しい型の植物標本の保全と活用に参画する必要があるだろう。ちなみに、第2回会議の会議録について、クラコウに照会、入手した。

(〒390-0312 松本市岡田松岡 211-3 Okada-matsuoka 211-3, Matsumoto 390-0312, Japan)